

思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究

「AYA支援チームのモデル作成に関する研究」

研究分担者 河合 由紀 滋賀医科大学乳腺・一般外科 助教

研究要旨：AYA世代がん患者の支援チームのモデル作成に関し、地域医療におけるローカルモデルとして、滋賀県内のがん・生殖医療に関する共通資材と統一研修後のアンケート調査を行い、有用性及び今後実現可能な課題について検証した。また院内で活動するAYA支援チームのモデル作成については、ニーズをもとに試行運用を行い、その影響と今後チーム医療として定常化するための課題の抽出について検証した。

A. 研究目的

地域医療におけるAYA世代がん診療体制の現状を把握し、AYA支援チーム作成における課題及び有益性についてモデル作成を通して検証する。

B. 研究方法

【研究1】広域診療体制に関する調査研究；2018年度、滋賀県、滋賀がん・生殖医療ネットワーク（OF-Net Shiga）、がん診療連携協議会（診療支援部会・相談支援部会）によって、がん・生殖医療に関する県内共通資材の作成とがん診療に関連する県内13施設での統一内容の啓発研修会が計画されていた。本研究ではAYA世代がん診療の広域支援体制に関する調査研究として、研修会終了後に参加の医療者を対象に、アンケートを実施した。本アンケート調査について、当学の臨床研究担当部署に倫理審査の必要性について問い合わせたが不要との判断であったため、倫理審査の申請は行わなかった。

【研究2】AYA支援チームモデルのニーズと院内試行；AYA支援チームのモデル作成として、滋賀医大病院内でのAYA支援チーム作成のニーズについてヒアリングを行った。その結果から必要と考えられた診療分野、職種によるAYA世代がんの具体例を症例検討し、そのもたらす影響や課題について抽出した。

C. 研究結果

【研究1】がん・生殖医療に関する滋賀県内統一研修を開催したがん診療連携拠点病院・支援病院13施設のうち12施設でアンケートが実施され、427名から回答を得た。職種は図1の通りであり、研修会の満足度については420名が「大変役立った」「まあまあ役立った」と回答した。がん患者の妊孕性温存に関する対応の理解度は高く（図2）、具体的な対応方法は「リーフレットの活用」「患者に相談窓口を紹介」への理解度が高かった（図3）。

本研修会のような県内統一の資材を用いたがん患者の治療やサポートに関連した情報を伝え

図1. アンケート回答者の職種

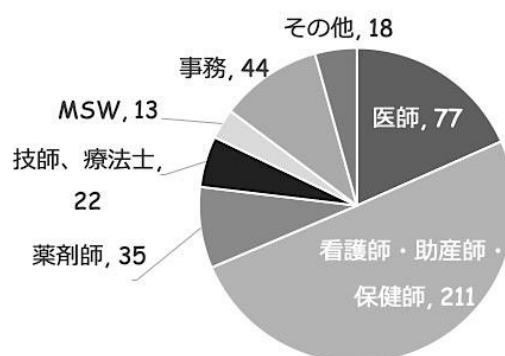


図2. がん患者の妊孕性温存への対応の理解

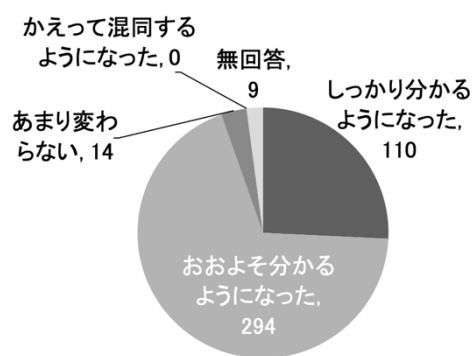
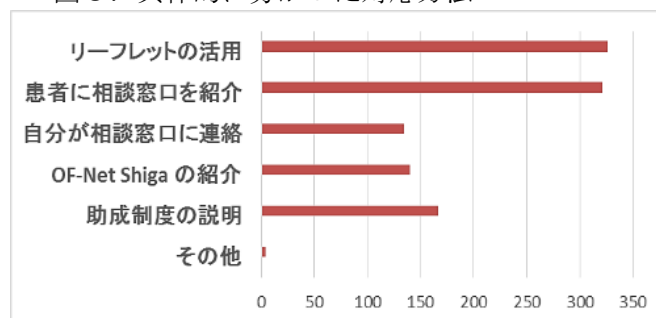


図3. 具体的に分かった対応方法



るシステムについては396名が「大変有用である」「有用である」と回答しており（図4）、同様の県内統一研修方式でふさわしい項目として、就労、経済、心理、家族への支援が要望の高い項目として挙げられた（図5）。

図4. 県内統一の資材、情報提供システム

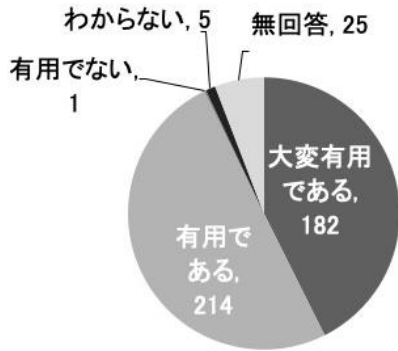
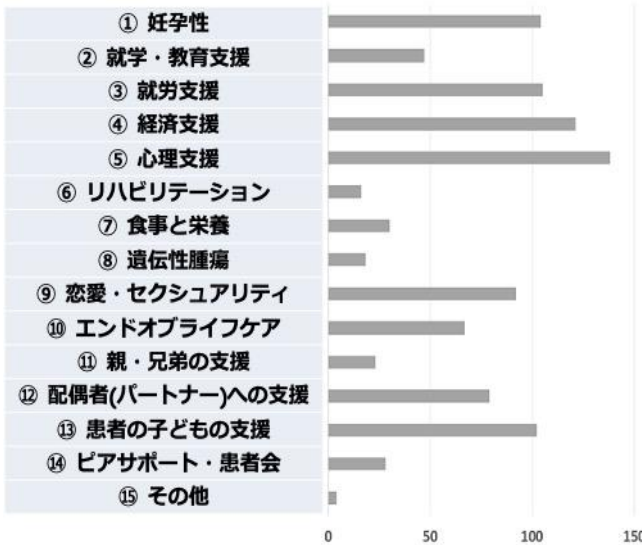


図5. 若年がん患者の支援において、今回と同様の県内統一研修にふさわしい項目



【研究2】院内ヒアリングから必要と挙げられた診療分野、職種として、小児科（がん、内分泌・代謝）、成人がん診療科、生殖医療（産婦人科、泌尿器科）、臨床遺伝診療の医師、がんに関わる看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、メディカルソーシャルワーカー、緩和ケアチーム（重複含む）が挙げられた。これら医療スタッフにより、キャンサーボード形式でAYA世代がん症例の検討会を行なった。検討会后、主担当科へ他分野からの介入の追加や、小児科からの連携がみられているが、AYA支援チームとしての定常運営への移行には至っていない。

D. 考察

【研究1】がん・生殖医療に関する県内統一内容

の研修の結果、患者への直接の個別対応についての習得度は高くなかったが共通資材の活用や相談窓口への紹介についての理解度は高く、県内統一方式の資材及び研修会による啓発の有用性が示された。また、AYA世代がん患者に関する他の支援事項において、がん・生殖医療と同等もしくはそれ以上に臨床現場で需要のある課題が挙げられ、同様の研修方式への要望の高い項目が抽出された。

【研究2】多診療分野・多職種によるAYA世代がん症例の検討会は、異なる分野からのニーズの指摘や小児科から成人がん診療科へのキャリアオーバーの運用・仕分けに有用であり、各々の担当分野でさらに検討を深める傾向が見られた。しかし定例化やチームとしての常態化した活動の運営への移行には、院内の医療スタッフ全体への啓発やAYA世代がん患者の拾い上げへの意識改革が課題と考えられた。

E. 結論

AYA世代がん診療の広域支援体制に関しては、がん・生殖医療での県内統一の資材・情報提供システムをモデルとして、他の支援事項に関しても実現可能性が高いと考えられた。有用性、課題についてさらに調査し検証する必要がある。滋賀医大病院内でのAYA支援チームのモデル作成においては、定常チーム化をすすめるにあたり抽出された課題への対応が必須である。また院内にとどまらず、地域のAYA世代がん患者支援との連携やサポートへの活用についても今後検証が必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

河合由紀. 当院における遺伝性乳がん診療の現況. 大津市医師会誌 42(1); 34-37, 2019

河合由紀, 北村美奈, 木村由梨, 勝元さえこ, 佐藤智佳, 茶野徳宏, 富田 香, 森 毅, 梅田朋子, 清水智治, 谷 眞至. 当院における遺伝性乳癌診療の取り組みと現況 -HBOC の診療体制と今後の展望について-. 滋賀医科大学雑誌 32(1) 2019. In press

2. 学会発表

河合由紀, 清水智治, 木村文則, 富田 香, 北村美奈, 森 毅, 村田 聡, 梅田朋子, 目片英治, 村上 節, 谷 眞至. 明るいサバイバーシップを目指した若年性乳癌患者の診療 滋賀県における若年乳癌患者のがん・生殖医療システム構築と今後の展望. 第26回日本乳癌学会総会 2018年5月 京都市.

河合由紀. 乳がん検診～遺伝性乳がんを含めて. 滋賀県産婦人科医会公開講座 がんと妊娠「若い女性の将来の妊娠と出産を考える」2018年7月

大津市.

河合由紀. 遺伝性腫瘍の診断と治療選択. 第2回
滋賀県がん薬物療法多職種合同カンファレンス
2018年9月 守山市.

河合由紀. 遺伝性乳がんの診療. 湖北乳がん治
療を考える会 2018年11月 長浜市.

田崎亜希子, 木村文則, 木村由梨, 河合由紀,
清水智治, 山内智香子, 谷 眞至, 村上 節. がん
患者の妊孕性温存への滋賀県での取り組み. 第9回
日本がん・生殖医療学会学術集会 2019年2月 岐
阜市.

河合由紀. 3rd Global AYA Cancer Congressに
参加して ~Oncologistの視点から. 第1回AYAがん
の医療と支援のあり方研究会学術集会 ランチョ
ンセミナー 2019年2月 名古屋市.

河合由紀. がん・生殖医療と滋賀県のシステム.
滋賀県委託事業「がん患者の未来の家族計画応援
事業」がん患者の妊孕性温存のための普及啓発事
業

がん治療医療機関従事者向け研修会 13施設の
うち2施設担当

2018年11月19日 長浜赤十字病院 (長浜市)

2018年12月18日 彦根市立病院 (彦根市)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし